

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和7年10月17日（金）午後5時00分～午後6時00分
地 区	星田地区
場 所	星田会館
参加人数	17人

テーマ1「安心して楽しく遊べる公園の整備について」

主 旨（区長）

- 星田区には、幼児・小学生向けの「ちびっこ広場」が8か所あり、地域が草刈り・清掃等により維持してきた。しかし、中学生が球技等の練習ができる広い公園がほとんどなく、天野川緑地公園まで行かなければ十分に運動できない状況が続いている。
- 星田公園は歴史ある公園であるが、落書き・破損・老朽化した設備が放置されており、保護者から「危ないので行かないように」と言われることもある。子どもが安心して遊べる環境に整備してほしい。

市 長

- 星田地区は市内でも特に公共施設整備が遅れている地域であり、公園整備は優先課題である。公園内にトイレを設置しているのは星田北エリアのみである。昨年度、傍示川沿いの広場を緊急避難場所に指定した経緯もあり、緊急防災減災事業債（国庫補助）を活用しながらトイレ設置を含む公園として整備を進めたい。
- 地区と協議のうえ、星田地区の旧出張所（約1,500㎡）は解体が必要であるが、売却はせず、市として土地を保有しつつ、防災公園や広場として活用する方向で考えている。
- 星田公園頂上部の噴水は撤去し、防災用東屋を設置することを想定している。東屋の整備費と噴水撤去費は緊急防災減災事業債の対象となるため、トイレ・防災倉庫・広場整備を包括的に進める。
- 倉治地区にスケボー広場（球技可能スペースを含む）を整備したが、星田地区からは距離があるため、星田地区内にも中学生向け球技等のスペースの確保が必要である。星田公園再整備の際には防災公園としての機能に加え、球技等ができる環境を整備したい。
- ため池について、豪雨・地震時の決壊リスクを踏まえ、地区と協議しながら防災公園として整備したい。

意見

- 子どもが走り回れる広場が少なく、天野川緑地公園まで行かないと運動できない。
→ [市長] 星田出張所跡地は平坦で広いため、走れる広場として整備することを前提に検討する。また、傍示川沿いについても緊急避難場所であるが、トイレ整備とあわせて広場として活用できるよう進めたい。
- 小学生と中学生を同じスペースで遊ばせるのは危険であり、世代ごとにエリアを分けてほしい。野球・サッカー・バスケットボールなどができる公園を整備してほしい。
→ [市長] 世代ごとに球技等が利用可能な公園を整備していきたい。小学生については見守りにおける人員確保の課題はあるが、フリースペースを各校週 5 回開催できるよう進めている。中学生については、星田公園を整備することでバスケットボールができるよう検討している。なお、野球場を整備するには面積が不足しているが、出張所跡地を整備する際には地域の意見を踏まえて検討したい。

テーマ 2 「交野市指定文化財の保全について」

主旨（区長）

- 星田薬師寺は地域の守り神として長年親しまれてきたが、建物の老朽化が深刻で、住民から倒壊の不安が寄せられている。
- 建物は宗教法人所有であるため、市が直接手を入れられず、保存会と宗教法人の協議が難航している。一方で文化財「星田薬師如来立像」は市が安全な環境で保管している。
- 建物の取り扱いや今後について、市の助言を求めたい。

市長

- 文化財は市が責任を持って保管しているが、建物は宗教法人の財産であるため、市による直接の工事や撤去はできない。
- 市では建物の危険性を踏まえ「特定空き家」に指定済みで、法的枠組みの中でできる対応は進めている。しかし、宗教法人の建物に対する強制代執行は財産権の問題があり慎重を要する。
- 地域・宗教法人による解体費用確保（クラウドファンディング等）と三者協議を組み合わせる形が現実的である。
- 市が協議の場に参加し、制度や手続きについて助言することは可能である。

テーマ 3 「地域コミュニティの将来について」

主旨（区長）

- 自治会・子ども会・PTA などの加入率が低下し組織維持が困難になっている。
- 転入者は増えているが、地域組織の仕組みが十分に伝わらず自治会等の参加率が落ちている。
- 区長や役員の高齢化が進み負担が集中している。
- 防災面では地域のつながりが不可欠であり、地区の体制を立て直すにあたり市の見解を求めたい。

市長

- 災害時の避難所運営には、自治会・地区組織の協力が不可欠で、行政のみでは対応できない。
- ICTが発達しても、紙媒体・回覧板・対面での連絡は依然重要である。
- 市役所への意見には「個人の意見」か「地域の総意としての意見」か、判断が難しいものがあるため、市への要望等をする際は地区として意見を取りまとめていただきたい。
- 星田北エリアではマンション管理組合など新しい組織が生まれており、既存地区と連携しながら柔軟に対応したい。
- 公共施設が少ない星田地区では交番移転・地域拠点整備を優先して進めている。
- 市としては可能な限り地区の取り組みを推進できるよう協力しながら、今まで以上に地区連携を図っていきたいと考えている。

意見

- 地域住民が担い手となる制度において人員不足が深刻化している。特に民生児童委員については、おおむね75歳未満という年齢要件の運用を柔軟にしてほしい。
 - [市長] 地域の人員不足はさまざまなケースがあるため、実情に応じた柔軟な運用を検討する。民生児童委員は国の制度であり市単独での対応は難しいが、市として協力できる部分は協力するので相談してほしい。
- 一人暮らしの高齢者が増え、見守り体制の構築が必要と考えている。
 - [市長] 行政と地域の役割分担を明確にし、包括支援センターと連携し体制を整備したい。
- 市の行事が中心部（ゆうゆうセンターやいきいきランド等）での開催が多いため、星田地域でも開催してほしい。
 - [市長] 市のイベント開催場所については、近年、フレンドタウン交野を中心会場として利用しているケースもある。防犯・警察・消防などのイベントについては、現在は同施設で実施している。ただし、フレンドタウン交野は星田地域の端部に位置しており、地域からのアクセスが良いとは言えない。

このような偏りが生じている背景には、過去、公共施設整備が天野川より東側に偏っており、とりわけ星田地区で十分に進んでこなかった経緯がある。星田地区では、小中学校や保育所を除けば、市が主体となって整備した公共施設が極めて少なく、その結果、地域拠点が不足しているという課題が生じている。今後はこの課題を解消するため、星田駅周辺を中心とした公共施設の整備について検討している。

星田駅周辺では、星田駅北側ロータリー傍の三角地へ星田交番を移転する計画がある。また、市が所有するロータリー付近の土地に、民間事業者が建設予定である建物の1階部分を無償提供していただく方向で協議を進めており、このスペースを新たな地域公共施設（地域交流機能・行政機能の一部）として整備する予定である。これにより、星田地区の長年の課題であった「公共施設の空白地帯」は一定程度解消される見通しである。

おりひめバスについては、京阪バスの撤退に急ぎ対応する必要があったため、現在は京阪バスが使用していたバス停をそのまま利用する形で運行を開始している。来年度に向けては、バス停の正式な整備や運行体制について関係機関と調整しており、内容が決まり次第、地域の皆様に説明する予定である。その後、必要に応じてルート変更なども検討し、現在よりも地域全体が移動しやすくなるよう改善したいと考えている。

おりひめバスの運行は、黒字・赤字のみで判断するのではなく、市として必要な公共交通への「投資」と捉えて取り組むべきものと考えている。市としては、公共交通の利便性向上と公共施設の配置見直しの検討を進めることで、地域の移動に関する課題にしっかり対応していきたい。